



## 母からの手紙

グエン ティ ラン トウ  
NGUYEN THI LAN THU

誰にでも一番愛している人がいます。私の一番愛している人は母です。何時も私を助けてくれて、いろいろなことを私に教えてくれます。母は何時も私の決断を支持してくれます。そして、私の側にいてくれます。私が失敗した時は、「七転び八起きですよ。」と、励ましてくれます。そんな大好きな母のために、私は日本に来ました。

私は大学で勉強したいと思っていました。でも、両親が借りたお金を、私が代わりに払ってあげたいと思うようになり、日本に行く事を決意しました。日本に来てからは、母がとても恋しかったです。でも、私は母を心配させたくなかったのです。電話をする時に泣いたり、しませんでした。私は日本の生活に早く慣れるように、日本の習慣や言葉を早く覚えられるように、毎日一生懸命過ごしました。そんな生活の中で起こる、嬉しい事や、悲しい事を、一番伝えたい母が私の側にいてくれないことが、私にとっては一番辛かったです。仕事で帰りが遅い日が続き、心配した母が私の友人に電話をかけたこともありました。私は時々、母が恋しくて、友人たちに隠れて布団の中で泣きました。早くベトナムに帰って、母を抱いて、「愛している。」と言いたい。でも、それはできません。それに、そんな言葉、恥ずかしくて一度も母に伝えた事はありませんでした。

文化や習慣の違いで、生活にも、仕事にも疲れていたある日、母から荷物が届きました。荷物の中には、たくさんのベトナムの食べ物と手紙が入っていました。手紙には、「日本とベトナムの料理は同じじゃないけど、ちゃんと食べていますか。心配だったので、ベトナムの食材を送ります。頑張っってね。」と、書いてありました。そして、手紙の最後にはベトナム料理の作り方で書かれていました。私は疲れがふき飛んで、暖かい気持ちになりました。日本で、もう少し頑張ろうと思えました。その手紙は今でも辛い時、私を支え、暖かい気持ちにしてくれます。

日本に来て、もう一年半になります。私には、やりたいことが1つできました。それは、日本で生活したこと、日本人から学んだこと、仕事のこと、楽しかったこと、辛かったこと、それを全部、母に話して聞かせてあげることです。そのために私は残り一年半、一生懸命仕事をし、ベトナムに帰ります。今度、恥ずかしがらずに「お母さんありがとう。私を産んでくれてありがとう。私はお母さんを一番愛しているよ。」と手紙を書こうと思います。私の手紙が母の心を暖かくできたらいいなと思っています。

国籍	ベトナム
職種	食鳥処理加工業
実習実施者	株式会社エヌチキン
監理団体	公益財団法人国際労務管理財団